

※この連載では、政策ビジョン研究センターが現在最も重要視しているトピックスを中心に、そのときどきのホットニュースを、当センターの取り組みの様子、活動状況などと共に紹介していきます。

活動報告

ワシントン大学医学部長 センター来訪

新年度早々の4月2日、政策ビジョン研究センターは、海外からゲストを迎えました。今回、森田朗センター長を訪問されたのは、ワシントン大学医学部長、ラリー・J・シャピロ教授 (Larry J. Shapiro) です。ワシントン大学医学部と言えば、全米の医学部の中で常にトップ3の地位にあることで有名です。

東大担当の親善大使

ラリー・J・シャピロ教授 (M.D., Distinguished Professor Executive Vice Chancellor for Medical Affairs and Dean, Washington University School of Medicine) は、遺伝学、分子生物学、生化学の研究者として著名な方で、医学部長に就任される前にはカリフォルニア大学サンフランシスコ校医学部で小児科学講座を担当していました。現在は、医学部長兼ワシントン大学の東大担当親善大使を務められています。教授はアメリカ科学アカデミー医学会 (National Academy of Sciences' Institute of Medicine) の会員の1人であり、他いくつかの学会の学会長を務められています。

少子高齢化を見据えて

今回の訪問では、東大担当親善大使就任のご挨拶、ワシントン大学の奨学金プログラム (McDonnell International Scholars



(写真左から) 医学部附属病院副院長 五十嵐隆教授、政策ビジョン研究センター佐藤 智晶 特任助教、同 森田朗センター長、ワシントン大学医学部長 ラリー・J・シャピロ教授、医学部附属病院長 武谷雄二教授

Academy Program) の説明、そして学術研究交流の可能性について話し合われました。

少子高齢化社会を見据えた医療政策研究の重要性なども議論されました。アメリカでは、医療保険改革の関連法案が連邦議会でも可決成立し、医療へのアクセス拡大に道が開かれることになったのですが、これは医療のコストと質の問題を解決するというより、さらに大きく浮かび上がらせるものです。他方、わが国でも少子高齢化が急激に進むなかで、どうやって医療へのアクセス、医療のコスト、そして医療の質のバランスを実現するのが問われています。クリニカルデータを利用して医療の有効性を比較する研究 (comparative effectiveness research) 等は、課題解決の第一歩として極めて大きな役割を果たすものと考えられます。

ちなみに、ワシントン大学医学部ではテーラーメイド医療¹をはじめとする高齢化に関連する研究が、ワシントン大学医療政策センター (Center for Health Policy) では、医学者を中心として医療経済の研究が進められています。

テーラーメイド医療

Tailor-made medicine

テーラーメイド医療は、パーソナライズド・メディスン (Personalized Medicine) と呼ばれることがより一般的で、患者個人の分子・遺伝情報の違いを把握し、疾病の原因や病態を形成する情報を体系的に利用して、患者の治療効果が最大に、他方で副作用が最小になるような予防または治療のことをいう。

<http://pari.u-tokyo.ac.jp/unit/words.html>

(当センター HP 政策関連用語集より)

科学技術ガバナンス研究会

課題解決型の 戦略的イノベーション

国の「新成長戦略」では、課題解決型の戦略的イノベーションを支援していく姿勢を、明確に打ち出されています。そして、科学技術は成長を支える、プラットフォームとしての役割を求められています。総合科学技術会議の議論においても、こうした姿勢が明確に打ち出されており、そのためのツールの1つとして、社会と科学技術イノベーションとの関係深化に向け、テクノロジーアセスメント (技術の社会影響評価) 等に基づいた取組を推進するとしています。

このような状況においては、テクノロジーアセスメントや科学技術戦略本部といった、社会と科学技術の媒介となる制度・組織のあり方につ

いて議論を深めることが重要です。また、科学技術の現場で社会との関係が何が問題となっているのかを、分野横断的に具体的にマッピングし、科学技術に関わる多様な社会的価値とそのガバナンスのあり方について、包括的な知見と視点を得ることも重要と思われま

す。そのため当センターは、「科学技術ガバナンス研究会」と題した連続ヒアリング研究会を開催しています。各分野で活躍されている研究者や政策実務家の皆様をお招きして、自由かつ幅広くご意見を伺うと同時に、私ども、政策ビジョンセンター技術ガバナンス研究ユニット及び、公共政策大学院 I2TA プロジェクト等にかかわる政策研究者との議論も行っています。

各回の開催報告 (講師による問題提起および、討議における主要な論点) は随時当センター HP 上に公開しております。是非ご覧ください。

連続ヒアリング企画 開催日程および講師

- 【第1回】4月21日 (水) 13:00 ~ 14:30
坂井 修一教授 (情報理工学系研究科)
- 【第2回】4月23日 (金) 15:00 ~ 16:30
中須賀 真一教授 (工学系研究科)
- 【第3回】5月11日 (火) 10:00 ~ 12:00
五神 真教授 (理学系研究科)
- 【第4回】5月14日 (金) 16:00 ~ 17:30
片岡 一則教授 (工学系研究科 / 医学系研究科)
- 【第5回】5月18日 (火) 10:30 ~ 12:00
渋谷 健司教授 (医学系研究科)
- 【第6回】5月21日 (金) 16:00 ~ 18:00
下山 勲教授 (情報理工学系研究科)
- 【第7回】5月24日 (月) 10:00 ~ 11:30
柳瀬 唯夫氏 (経済産業省産業再生課 課長)
- 【第8回】5月25日 (火) 10:00 ~ 11:30
豊島 聡氏 (独立行政法人医薬品医療機器総合機構 シニアアドバイザー)
- 【第9回】5月31日 (月) 09:30 ~ 11:00
山地 憲治氏 (財団法人地球環境産業技術研究機構 理事・研究所長)